

大都市の人口の推移－国勢調査結果から－（その2）

平成25年3月号の統計トピックでは、大都市（政令指定都市及び東京都区部（注1））の人口について、比較しながら紹介しました。今回は東西対決編としてその続きを御紹介します（注2）。

（注1） 東京都区部とは、東京都のうち23の特別区を指します。

（注2） 本稿においては、20の政令指定都市及び東京都区部の計21地域のみを対象とします。また、使用する統計資料は国勢調査結果とします。

1 関西圏VS首都圏

大正9（1920）年における第1回調査時の関西圏の大都市（京都市、大阪市、堺市、神戸市）の人口は253万7949人、首都圏の大都市（さいたま市、千葉市、東京都区部、川崎市、横浜市、相模原市）の人口は272万618人で、首都圏が関西圏を上回っていましたが、その差は僅か18万2669人でした。

続く大正14（1925）年の第2回調査時においては、関西圏354万3988人に対し首都圏258万2271人で、関西圏が首都圏を96万1717人上回る結果になりました。そして、昭和5（1930）年の第3回調査時ではその差が118万3189人にまで広がりました（関西圏：412万6679人、首都圏：294万3490人）。大正末期から昭和初期にかけての関西圏は、東京一極集中の現在とは程遠い時代だったようです。

ところが、昭和10（1935）年の第4回調査時に逆転されてからは（関西圏：512万3932人、首都圏：691万7546人、その差179万3614人）、現在に至るまで首都圏が関西圏を上回る結果が続いています。（表－1、図－1参照）

2 首都圏から東京都区部を除くと……

ところで、首都圏から東京都区部を除き、政令指定都市のみで比較するとどうなるでしょうか。

東京都区部を除く首都圏の大都市の人口は、大正9（1920）年の第1回調査時では54万7417人に過ぎず、関西圏の

大都市の人口は253万7949人で

すから、関西圏が199万532人上

回る結果になっています。その差

は回を追うごとに広がり、昭和

10（1935）年の第4回調査時に

おいて最大となり、関西圏512万

3932人に対し東京都区部を除く

首都圏104万1879人、実に408

万2053人差になりました。

その差は昭和15（1940）年の

第5回調査時では397万1250人、

昭和22（1947）年の第6回調査

表－1 関西圏と首都圏の大都市人口の推移（各年10月1日現在の国勢調査結果）

年	関西圏 (A)	首都圏 (B)	首都圏との差 (A)－(B)	東京都区部を 除く首都圏 (C)	東京都区部を除く 首都圏との差 (A)－(C)
大正9(1920)	2,537,949	2,720,618	△182,669	547,417	1,990,532
14(1925)	3,543,988	2,582,271	961,717	586,704	2,957,284
昭和5(1930)	4,126,679	2,943,490	1,183,189	872,577	3,254,102
10(1935)	5,123,932	6,917,546	△1,793,614	1,041,879	4,082,053
15(1940)	5,491,447	8,299,001	△2,807,554	1,520,197	3,971,250
22(1947)	3,360,097	5,664,145	△2,304,048	1,486,597	1,873,500
25(1950)	4,076,179	7,102,412	△3,026,233	1,717,341	2,358,838
30(1955)	4,984,511	9,162,860	△4,178,349	2,193,756	2,790,755
35(1960)	5,750,221	11,041,575	△5,291,354	2,731,548	3,018,673
40(1965)	6,204,307	12,521,173	△6,316,866	3,628,079	2,576,228
45(1970)	6,282,956	13,414,127	△7,131,171	4,573,185	1,709,771
50(1975)	6,351,339	14,049,883	△7,698,544	5,403,363	947,976
55(1980)	6,298,741	14,136,694	△7,837,953	5,784,801	513,940
60(1985)	6,344,572	14,529,727	△8,185,155	6,175,112	169,460
平成2(1990)	6,370,079	14,819,611	△8,449,532	6,656,038	△285,959
7(1995)	6,293,028	14,874,044	△8,581,016	6,906,430	△613,402
12(2000)	6,351,975	15,328,022	△8,976,047	7,193,334	△841,359
17(2005)	6,459,981	16,125,623	△9,665,642	7,635,970	△1,175,989
22(2010)	6,525,495	16,961,707	△10,436,212	8,016,012	△1,490,517

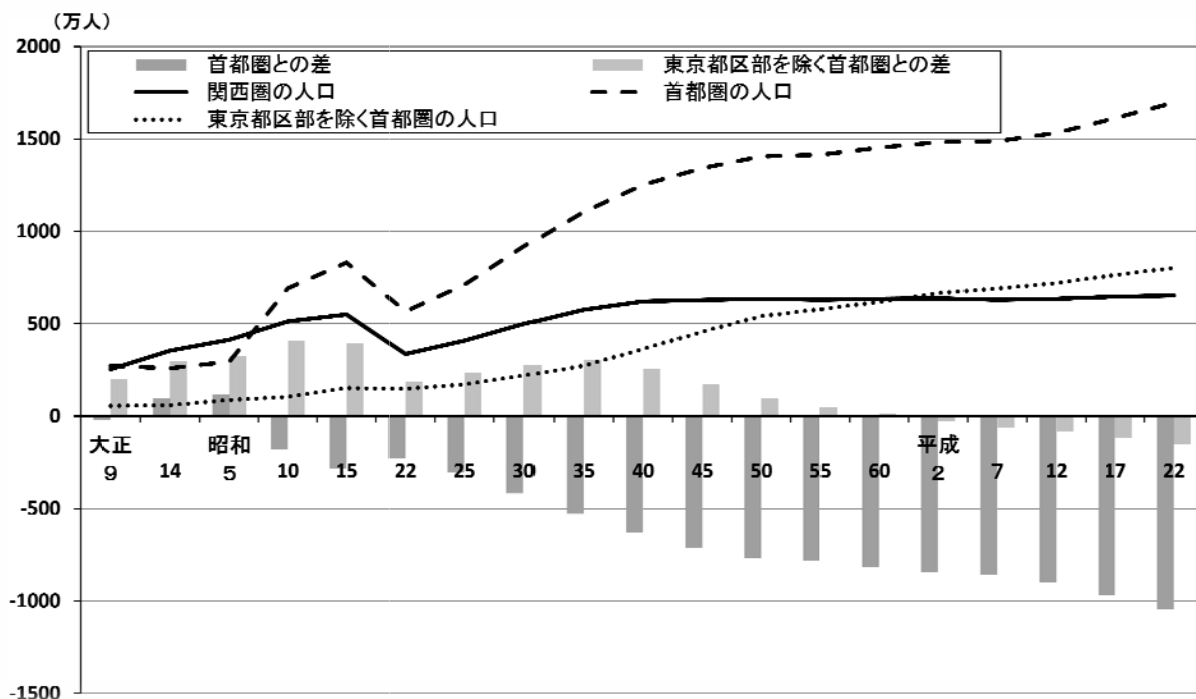
（注） 関西圏：京都市、大阪市、堺市、神戸市

首都圏：さいたま市、千葉市、東京都区部、川崎市、横浜市、相模原市

が急速に復興したこの時期における大都市人口の増加数は、関西圏が東京都区部を除く首都圏を上回っていたのです。

以降、関西圏では昭和 31 (1956) 年の京都市、大阪市、神戸市より後に誕生した政令指定都市が堺市のみに限られるのに対し、首都圏では同年の横浜市より後に川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市と政令指定都市が次々と誕生したことから分かるように人口の増加が著しく、その差は減少傾向を示しましたが、昭和 60 (1985) 年の第 14 回調査時までは関西圏が東京都区部を除く首都圏を上回るという関西圏優位時代が長らくの間続きました。

図-1 関西圏と首都圏の大都市人口の推移



3 西日本VS東日本では

次に、視点を変えて、西日本と東日本(注3)で比較してみましょう。

(注3) 本稿においては、概ね糸魚川静岡構造線付近で東西に分けることとします。西日本は名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市とし、東日本は札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京都区部、川崎市、横浜市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市を指すこととします。

表-2 西日本と東日本の大都市人口の推移(各年10月1日現在の国勢調査結果)

年	西日本 (A)	東日本 (B)	東日本との差 (A) - (B)	東京都区部を除く東日本 (C)	東京都区部を除く東日本との差 (A) - (C)
大正 9 (1920)	3,678,270	3,173,154	505,116	999,953	2,678,317
14 (1925)	5,278,781	3,195,054	2,083,727	1,199,487	4,079,294
昭和 5 (1930)	6,309,862	3,728,974	2,580,888	1,658,061	4,651,801
10 (1935)	7,743,307	7,863,821	△ 120,514	1,988,154	5,755,153
15 (1940)	8,575,059	9,326,798	△ 751,739	2,547,994	6,027,065
20 (1945)	5,744,594	6,833,735	△ 1,089,141	2,656,187	3,088,407
25 (1950)	6,926,891	8,457,977	△ 1,531,086	3,072,906	3,853,985
30 (1955)	8,659,169	10,917,632	△ 2,258,463	3,948,528	4,710,641
35 (1960)	10,041,710	13,110,025	△ 3,068,315	4,799,998	5,241,712
40 (1965)	11,135,055	15,132,204	△ 3,997,149	6,239,110	4,895,945
45 (1970)	11,571,724	16,436,799	△ 4,865,075	7,595,857	3,975,867
50 (1975)	12,345,586	17,488,042	△ 5,142,456	8,841,522	3,504,064
55 (1980)	12,511,135	17,851,845	△ 5,340,710	9,499,952	3,011,183
60 (1985)	12,850,111	18,473,236	△ 5,623,125	10,118,621	2,731,490
平成 2 (1990)	13,047,130	19,144,187	△ 6,097,057	10,980,614	2,066,516
7 (1995)	13,124,591	19,373,007	△ 6,248,416	11,405,393	1,719,198
12 (2000)	13,291,366	19,948,559	△ 6,657,193	11,813,871	1,477,495
17 (2005)	13,568,587	21,321,636	△ 7,753,049	12,831,983	736,604
22 (2010)	13,847,879	22,250,202	△ 8,402,323	13,304,507	543,372

大正 9 (1920) 年における第 1 回調査時の西日本の大都市の人口は 367 万 8270 人、東日本の大都市の人口は 317 万 3154 人で、この時点から西日本が東日本を 50 万 5116 人上回る結果でした。

続く大正 14 (1925) 年の第 2 回調査時において、その差は 208 万 3727 人に広がり(西日本: 527 万 8781 人、東日本 319 万 5054 人)、昭和 5 (1930) 年の第 3 回調査時ではその差が最大の 258 万 888 人

(注) 西日本: 名古屋市, 京都市, 大阪市, 堺市, 神戸市, 岡山市, 広島市, 北九州市, 福岡市, 熊本市
東日本: 札幌市, 仙台市, さいたま市, 千葉市, 東京都区部, 川崎市, 横浜市, 相模原市, 新潟市, 静岡市, 浜松市

統計トピック

にまで広がりました（西日本：630万9862人，東日本：372万8974人）。

関西圏V S 首都圏と同様に，昭和10（1935）年の第4回調査時に逆転されてからは（西日本：774万3307人，東日本：786万3821人，その差12万514人），現在に至るまで東日本が西日本を上回る結果が続いています。（表－2，図－2参照）

4 東日本から東京都区部を除くと……

ところで，先程と同じように東日本から東京都区部を除き，政令指定都市のみで比較するとどうなるでしょうか。何と第1回調査時から最新の第19回調査（平成22〔2010〕年）に至るまで，一貫して西日本が東日本を上回る結果になります。

大正9（1920）年の第1回調査時から，西日本の大都市の人口367万8270人に対し，東京都区部を除く東日本の大都市の人口99万9953人で，西日本が267万8317人上回る結果となっていました。

その差は回を追うごとに広がり，昭和15（1940）年の第5回調査時において最大となり，西日本857万5059人に対し，東京都区部を除く東日本254万7994人，実に602万7065人差という結果になりました。

ところが，昭和22（1947）年の第6回調査時ではその差が308万8407人と半減しましたが，昭和25（1950）年の第7回調査時では385万3985人と盛り返し，昭和30（1955）年の第8回調査時では471万641人，そして昭和35（1960）年の第9回調査時において524万1712人と，戦後のピークを迎えました。

昭和40（1965）年の第10回調査以降，西日本に誕生した政令指定都市は5都市（堺市，岡山市，広島市，福岡市，熊本市）に対し，東日本は9都市（札幌市，仙台市，さいたま市，千葉市，川崎市，相模原市，新潟市，静岡市，浜松市）で，西日本をはるかに上回る勢いで東日本の人口が増加したといえますが，最新の第19回調査においても，西日本1384万7879人に対し東京都区部を除く東日本1330万4507人，その差54万3372人で，縮まりつつあるものの，依然として西日本が東日本を上回る結果が続いています。

西日本に位置する大都市は，東日本の都市以上に古くから規模の大きな都市が多かったといえるのではないのでしょうか。

図－2 西日本と東日本の大都市人口の推移

